

トルコの金融市場動向 Weekly Report

【2017年12月30日～2018年1月5日までの推移】

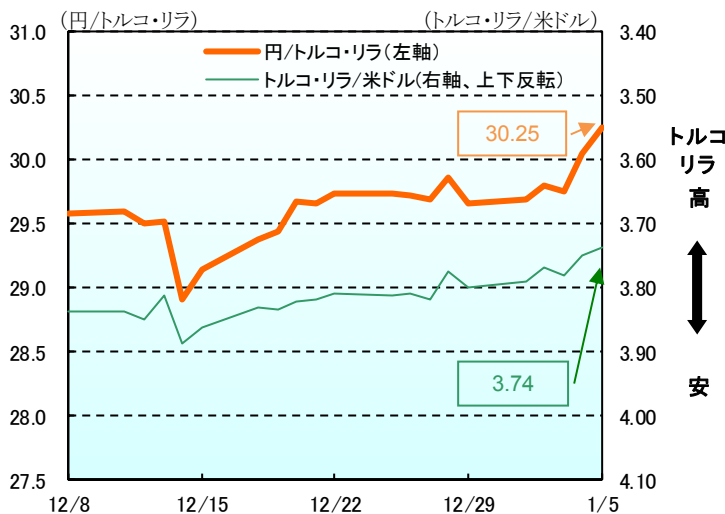
【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は1週間を通して見ると対米ドル、対円で上昇しました。またトルコの2年国債金利は低下しました。

12月の消費者物価指数はおおむね事前の市場予想通りとなり、前年同月比で見たインフレ率は2016年12月に食料や飲料、タバコなどが値上がりした反動から鈍化しました。

米国がビザ発給業務を再開したことやエルドアン大統領がフランスに訪問しEU(欧州連合)に対して歩み寄りの姿勢を示したことなどから、対欧米関係の改善期待が高まり、為替、債券ともに堅調な推移となりました。

【トルコ・リラ 為替推移】 (2017年12月8日～2018年1月5日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

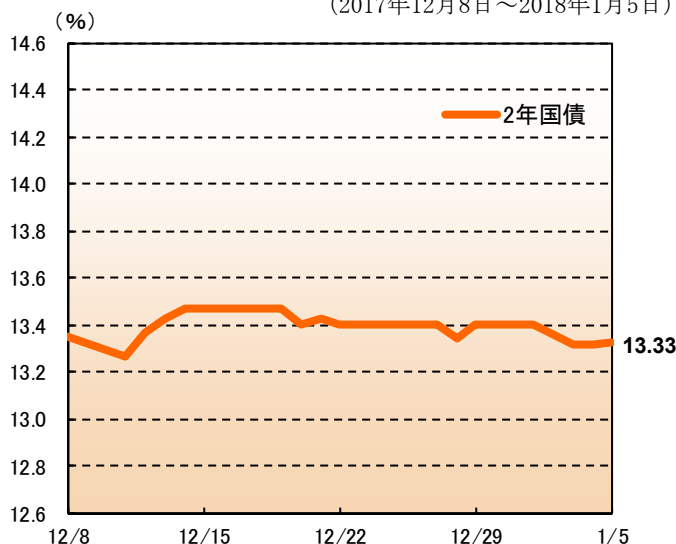
【2】今週の見通し

今週は11月の経常収支の発表が予定されています。

米国の連邦裁判所は年初に、イランの金融制裁逃れのマネーロンダリング(資金洗浄)に関与した容疑で裁判が行われていたトルコ・ハルク銀行の前副支配人に対して、横領や背任に関する容疑で有罪を宣告しました。マネーロンダリング自体については無罪としましたが、トルコ政府はこの裁判が政治的な意図の下に行われていると撤回を求めており、引き続き対米関係の動向には注意が必要な環境が続くと考えます。

【トルコ 金利推移】

(2017年12月8日～2018年1月5日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>